

科目： 科学技術と医療の比較文化論

民族誌学 IIa

担当者：モハーチ ゲルゲイ

講習

講義概要（150字ぐらいまで）

本授業では、世界各地の民族誌的事例を比較しながら、身体・社会・科学技術との関わりについての理解を深めることを目指す。病気と健康の多様性をめぐる諸課題を議論し、科学技術社会論と医療人類学の分野における近年の動向を概観する。

教育目的（100字ぐらいまで）

医学は細分化され急速に発展している中、生物学と文化の関係そのものが、医療実践の現場で問い合わせ直される傾向がある。本授業では、医療人類学や科学技術社会論のアプローチを絡めつつ、こうして日常生活の隅々にまでに多様な形で浸透してきた科学技術の意義を明らかにする。

到達目標（100字ぐらいまで）

- 1 医学と文化の相互作用を学際的に捉えるため、比較民族誌の視点と方法を習得する。
- 2 身体・社会・科学技術における諸次元の多様性、またそれらの関わりへの理解を深めるため、医療人類学と科学技術社会論の知見を学び、応用できるようになる。
- 3 従来の異文化研究の範囲を超えて、自文化の中の異文化としてテクノサイエンスをめぐる諸問題に対して、自らの考え方を実験的に交換・拡張できる能力を培う。

キーワード（3～5つぐらい）

医療技術、生命科学、身体、病気、比較民族誌

第一部 再入門：医療と科学技術

第1回 オリエンテーション（講義）

第2回 身体論：感覚、学習、統治（概説・討論）

- Lock and Schepers-Hughes 1987：医療人類学における「身体」の概念を紹介

第3回 医療人類学：病気の多様性（概説・討論）

- Young 1982; 池田 2014：医療人類学における「病気」と「病」の概念を紹介

第4回 科学技術論：臨床と実験室（概説・討論）

- Berg and Timmermans 2003：科学技術社会論において「実践としての医療技術」を検討

第二部 医療技術の民族誌

第5回 実践としての診断（概説・課題提供・討論）

- Mol 2002：オランダにおける動脈硬化の診断実践、その多様性を論じる

第6回 生殖技術における客観化（概説・課題提供・討論）

- Cussins 1998：アメリカにおける生殖技術の使用を通して自己と客体の関係を分析

第7回 薬剤：差異と類似の再考（概説・課題提供・討論）

- Hayden 2007：メキシコにおけるジェネリック医薬品の導入から差異と類似について考察

第8回 旅する医学（課題提供・グループワーク）

- Zhan 2009：カリフォルニアと上海の間を行き来する東洋医学からグローバル化を再考

第三部 生の人類学

第9回 生権力の解剖（概説・課題提供・討論）

- Rabinow 1992：「生社会」（biosociality）という概念を紹介・解説

第10回 生命のグローバル化（概説・課題提供・討論）

- Nguyen 2005：アフリカにおける AIDS 臨床試験において生命科学のグローバル統治を考察

第11回 遺伝子と人種（概説・課題提供・討論）

- Montoya 2007：米国・メキシコの糖尿病研究から遺伝学と人種差別の関係を論じる

第12回 生社会コミュニティ（課題提供・グループワーク）

- 田辺 2008：北タイの AIDS 感染者の自助グループの事例を通して生の社会的変化を分析

第四部 ミニワークショップ

第13回 学生発表 I（発表・討論）

第14回 学生発表 II（発表・討論）

第15回 まとめ（総括）

履修条件

とくになし。

成績評価方法

各授業への出席、発言、執筆課題の提出、最終発表を総合的に評価する。

A：出席・参加（30%）：毎回クラス討論へ積極的に参加すること。

B：筆記課題（30%）：三つのテキストの概要及び課題提供（詳細は下記を参照）。

C：最終発表（40%）：事例分析に基づいた批判的な概説（詳細は下記を参照）。

授業外における学習方法

(A) 学期初めに配布（または電子ファイルで共有）された参考文献を出席者全員が事前に読むことを前提に、第一部において総合討論、また第二・第三部においては各担当者が紹介した参考文献を精読すること。

(B) 発表者は、事前に用意した概要（3~5000字）および課題（2点以上）を他の参加者に配布すること。

(C) 最終発表会では、第二・第三部の授業で扱ったテーマから選ばれた一つの課題について事例分析を通じて批判的に概説すること（15分発表、10分討論）。

教材・参考文献

さらに詳しい文献リストが初回授業時に配布される。

【全員必須】

※全体討論対象：

福島真人 2005「制度の中の生（bios）」『現代人類学のプラクシス：科学技術時代をみる視座』

福島真人・山下晋司（編）、103-106、有斐閣。

池田光穂 2014 [2000]「医療人類学」『生命倫理と医療倫理』改訂3版、信次伏木・章権則・求霜田（編）、224-233、金芳堂。

Nancy Scheper-Hughes and Margaret Lock. 1987. The Mindful Body: A Prolegomenon to Future Work in Medical Anthropology. *Medical Anthropology Quarterly* 1(1):6-41.

Stefan Timmermans and Marc Berg. 2003. The practice of medical technology. *Sociology of Health & Illness* 25:97-114.

Allan Young. 1982. The anthropologies of illness and sickness. *Annual Review of Anthropology* 11:257-285.

※グループワーク対象、全員概要・課題提供：

田辺繁治 2008「ケアのコミュニティ：北タイのエイズ自助グループが切り開くもの」東京：

岩波書店。 (215 ページ)

Mei Zhan. 2009. *Other-worldly : Making Chinese Medicine Through Transnational Frames*. Durham: Duke University Press. (244 pages)

【選択必須】

※個人発表対象、以下の中から 1 本を選び、概要・課題提供：

- Charis M. Cussins 1998. Ontological choreography: Agency for women patients in an infertility clinic. In *Differences in Medicine : Unraveling Practices, Techniques, and Bodies*. Marc Berg and Annemarie Mol eds. 166-201. Durham, N.C.: Duke University Press.
- Cori Hayden. 2007. A generic solution? Pharmaceuticals and the politics of the similar in Mexico. *Current Anthropology* 48(4): 475–49.
- Annemarie Mol. 2002. *The Body Multiple: Ontology in Medical Practice*. Science and cultural theory. Durham: Duke University Press; Chapters 1 (“Doing disease,” pp.1–28) and 2 (“Different atheroscleroses,” 29–52)
- Michael J. Montoya. 2007. Bioethnic conscription: Genes, race, and Mexicana/o ethnicity in diabetes research. *Cultural Anthropology* 22(1): 94–128.
- Vinh-Kim Nguyen. 2005. Antiretroviral globalism, biopolitics, and therapeutic citizenship. In *Global Assemblages: Technology, Politics, and Ethics as Anthropological Problems*. Aihwa Ong and Stephen J. Collier, eds. 124–144. Malden, MA: Blackwell.
- Paul Rabinow. 1992. “Artificiality and enlightenment: From sociobiology to biosociality,” In *Incorporations Vol. 6*. Jonathan Crary, ed. 234–252. Cambridge, Mass.: MIT Press.